

## Hope Lights Our Way

希望の道を、つなごう。

# 東京2020オリンピック聖火リレー 7月13日(月)市内走行ルートが決定

オリンピック聖火リレーは3月26日(木)に福島県をスタートし、121日かけて全国を回り、7月24日(金・祝)の開会式で新国立競技場の聖火台に点火されます。立川市では7月13日(月)の最終市区町村として聖火リレーが行われます(右地図参照)。ゴールのTACHIKAWA STAGE GARDEN(グリーン・スプリングス内)に4月開業予定)では、セレブレーション(聖火到着を祝うイベント)が開催される予定です。

国市オリンピック・パラリンピック準備室・内線2680

### 聖火リレーの1日の流れ

聖火リレーでは、1日で80人~90人程度の聖火ランナーが、1人あたり約200m走り、複数の市区町村でリレーを行います。市区町村間は、専用のランタンに格納して車両で移動します。1日の最終市区町村では、セレブレーションが開催されます。



### 聖火リレートーチ

オリンピックトーチは、桜をモチーフにした形で、アルミ押出成形という技術を用いた一つもつなぎ目のないデザインになっています。素材の一部には、東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材が再利用されています。



画像提供: Tokyo 2020



Photo by Tokyo 2020

### 聖火ランナーユニフォーム

胸のエムブレムから大会ルックの市松模様、背中中のオリンピックシンボルまでのつながりで聖火を表現しています。斜めがけのデザインは、日本で行われるリレーで伝統的に使用される襷(たすき)がモチーフになっています。



Photo by Tokyo 2020



Photo by Tokyo 2020

### オリンピック 聖火リレーとは

オリンピック聖火リレーは、ギリシャのオリンピア遺跡で太陽光から採火された聖火をギリシャ国内と開催国内でリレーによって開会式までつなげるものです。聖火は大会の数か月前に採火された後、多くの人によって開催地まで運ばれ、開会式にメインスタジアムの聖火台に点火され、大会が終わるまで灯し続けられます。

## パラリンピック聖火リレー 8月23日(日)立川市内で実施

パラリンピック聖火リレーは、オリンピック終了後、パラリンピック開会式までの移行期間に開催され、東京都では8月22日(土)~25日(火)に実施されます。立川市では8月23日(日)に聖火リレーが実施されます。市内のくわしい走行ルートは春ごろに発表される予定です。



### パラリンピック聖火ランナーを募集

- 主な要件
- ◆2008年4月1日以前に生まれた方
  - ◆国籍・性別は問いません

くわしくは、「東京都聖火リレー実行委員会」のホームページをご覧ください(右2次元コードからアクセス可)。



## 東京1964大会を振り返る

東京1964大会の聖火は、1964年9月7日に沖縄へ到着後、鹿児島、宮崎、千歳へ空輸され、日本全国を4コースに分かれてリレーし、10月10日に聖火台に点火されました。立川市内では、鹿児島を出発したコースの聖火が10月8日に通過。日野橋で聖火を受け取り、国立市へとつなぎました。

